

<日本・アジアのキリスト教> (演習・Seminar)

A: 日程・場所

演習日(後期): 10/1, 15, 22, 29, 11/5, 12, 19, 12/3, 10, 1/7

休講など: 11/26は11月祭

場所: キリスト教学研究室(新館8階、811号室)

B: テキスト

1. 植村正久の日本論、『植村正久著作集1』 新教出版社 (前期)
2. 高倉徳太郎 『福音的基督教』(新版) 新教出版社 (後期)

C: 植村と高倉

『キリスト教人名辞典』(日本基督教団出版局)より

1. 植村正久(1858-1925)

日本基督教会牧師、神学者。幼名道太郎、謙堂と号する。

江戸芝露月町に生まれる。生家は1500石の旗本。1868年に横浜へ移り、J.H.バラの私塾に学ぶ。73年5月にバラより受洗。S.R.ブラウンの塾(東京一致神学校)で伝道者を志す。80年、按手礼を受け、下谷一致教会牧師。87年、番町一致教会(後に、一番町教会、現在の富士見町教会)を設立。

日本基督公会から、日本基督一致教会、日本基督教会へ至る教会形成において指導的役割を果たす。

1904年、東京神学社(東京神学大学の前身)を設立し、神学教育と伝道者養成に当たる。『日本評論』『福音新報』などを通して政治、社会、教育、宗教などに関して積極的に発言。カルヴィニズムを基調とする正統福音主義。

2. 高倉徳太郎(1885-1934)

日本基督教会牧師、神学者。京都府綾部町に生まれる。

第四高等学校在学中に教会に通い、東京帝国大学独法科に入学し、1906年に富士見町教会で植村正久より洗礼を受ける。翌年、東京神学社に入学(東京帝国大学在籍のまま。1910年に神学社を卒業し、東大退学)、13年に北辰教会(現・札幌北一条教会)牧師となる。18年に、東京神学社で教鞭をとりつつ、鎌倉教会(現・鎌倉雪の下教会)を牧する。1921-24年にエディンバラ大学などに留学、帰国後、25年に東京神学社神学校校長、戸山教会設立(30年に、信濃町教会と改称)。30年に、東京神学社と明治学院神学部を合併し、日本神学校を設立。32年頃より健康不調となり、34年みずから命を絶った。

自我の確立をみざす格闘から十字架の恩寵によってのみ生かされるとの確信に至り、<福音的キリスト教>を提唱。説教者として、青年に大きな感化を与える。

『高倉全集』(10巻、1936-37)、『高倉徳太郎著作集』(5巻、1964)。

3. 植村より見た、近代日本のキリスト教思想形成の系譜

植村 → 高倉 → 東京神学大学の組織神学の伝統
→ 波多野精一、キリスト教的宗教哲学

4. 近代キリスト教思想の展開を概観する試み
内村鑑三と無教会の系譜を含めて

F:ゼミの進め方

- ・本日は、「序」について、内容を確認し、次回からの担当を決定する。
- ・毎回担当者が、テキストの内容を説明し、問題提起し(テキスト外の資料などを合わせて用いる)、議論を行う。担当者はレジメを用意する。残った問題は宿題とする(次回の冒頭で報告する)。
- ・必要な解説を行う(芦名)。
- ・成績はゼミでの発表によって評価する。

G:文献(追加分)

1. 古屋安雄 『神の国とキリスト教』教文館
2. 雨宮栄一 『若き植村正久』新教出版社
3. J. Nelson Jennings, *Theology in Japan. Takakura Tokutaro (1885-1934)*, University Press of America, 2005

<後期演習>

1. テキスト:高倉徳太郎 『福音的キリスト教』新教出版社
2. 「序」
 - ・ブルナー「体験と認識と信仰」への言及
弁証法神学以降の思想状況を反映している
自由主義神学批判 「信仰の心理学的なロマンティックな新解釈であり、神のたしかさの人間化である」
cf. 植村などの先行する世代との比較
 - ・聖書の宗教、宗教改革者の神学へ
cf. ルター・ルネサンス
カルヴァン研究者としての高倉(古屋他『日本神学史』ヨルダン社)

↓

 - ・福音的キリスト教
「宗教改革者らの解した意味での新約聖書の宗教」
実生活(信仰生活・倫理)面での寛容と、教義的な厳格主義
祖国・同朋への言及
3. 「第三版に序す」
 - ・宗教的真理は魂と生活との問題である。真理から生命へ
 - ・十字架による無比なる贖罪的真理
 - ・主の福音における／神のたしかさと恵みとの体験／という根基
経験・体験というキーワードの登場
フォーサイスの影響？